

## 第三者評価結果報告書

### ①第三者評価機関名

特定非営利活動法人 市民セクターよこはま

### ②施設・事業所情報

名称：おおぞらどんぐり保育室	種別：地域型保育事業（居宅訪問型保育事業除く）
代表者氏名：松島 涼子	定員（利用人数）： 9名（7名）
所在地：〒244-0003 横浜市戸塚区戸塚町2230-3 ヒルズ南戸塚4号棟107号室	
TEL：045-443-6193（FAX 同じ）	
ホームページ：	

### 【施設・事業所の概要】

開設年月日	2015年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）	特定非営利活動法人 おおぞら	
職員数	常勤職員： 3名	非常勤職員： 2名
専門職員	保育士 3名	
施設・設備 の概要	(居室数)	(設備等)
	保育室3室、事務室1室、厨房1室	○住まいで使用する部屋の作りですが、子どもたちが過ごしやすいように改良しています。床や壁はクッション性のあるものを貼ったり、コーナーガードを取り付けています。 ○ベランダも活動場所の一つで、すのこを敷き詰めたり、滑り止めのシートも設置しています。園庭はありませんが、様々な公園に行ったり、散歩を楽しんだり、連携園の園庭に行ったりと外遊びを充実させています。

おおぞらどんぐり保育室は、JR及び横浜市営地下鉄「戸塚」駅からバスに乗り、「下郷」あるいは「ヒルズ南戸塚」バス停から歩いて6分ほどのマンションの1階にあります。向かいの十一ノ区公園を始めとして、近隣には自然豊かな公園が複数あり、子どもたちの散歩コースとなっています。居住用のマンションを保育室として用いていますが、子どもの安全性や快適性に配慮した工夫がなされています。室内は明るく日当たりがよく、家庭的な雰囲気となっています。保育室は、2015年（平成27年）4月に、特定非営利活動法人おおぞらによって設立されました。法人は、同じ戸塚区に連携園である認可保育園を1園運営しています。定員は9名（0・1・2歳児）、開園時間は、平日、土曜日ともに7時～19時です。

### ③理念・基本方針

#### 運営方針

- ・あたたかく自由な雰囲気の中で、子どもたちが「受け身」の学び手ではなく、何でも「なぜ？」と考え、自分の思いを言い、友だちの思いも聞けるようなゆとりのある時と機会を保障していく。そして力を合わせて、みんなと行うことが好きになり、さらにやりたいことを進んで実行しようとする「能動的」な学び手へと育てていく。
- ・子どもを愛する保護者、職員、地域、園をとりまく保育関係者のみなさんと固く手を結び、子どもも大人も幸せに暮らしていけるように努める。

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

0、1、2歳児のもっとも愛着関係が重要である時期に小規模で家庭的なあたたかい環境のなか、人を信頼し物事への興味・関心を持ち、豊かな人としての基礎を育成していきます。保護者と共に子育てをする仲間として、信頼し協力し合う関係を築くため、送迎時の声掛けや個人面談、懇談会などの交流の機会を大切にしています。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年5月15日(契約日)～2024年2月5日(評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	1回

#### ⑥総評

##### ◆特長や今後期待される点

##### 【特長】

##### ●保育士に優しく受け止めてもらい、子どもたちは自分らしさを素直に発揮し、園生活を楽しんでます

職員会議や日々の会話で子ども一人ひとりの様子について細やかに情報共有することで、保育士全員で全ての子どもを見る体制を築いています。乳児だけの保育室ということもあり、指導計画通りにいかないこともありますが、子どもの発達状況や興味・関心、その日の子どもの体調などを考慮して柔軟に計画を見直し、子どもたちが落ち着いて生活ができるようにしています。0・1・2歳児が同じ空間で生活していますが、子どもの年齢や発達状況に合わせて製作の内容を調整したり、小用室(多目的室)を用いて活動を分けるなどし、それぞれの子どもが発達に合った活動ができるようにしています。1・2歳児は同じ法人の連携園「おおぞらひまわり保育園」に遊びに行き同じ年齢の子どもたちや幼児と交流し、集団での活動を経験しています。

保育士は、子どもの言葉や表情、仕草などから子どもの思いを汲み取り、発する単語を拾いながら気持ちを代弁しています。子どもの甘えも受け止め、スキンシップをたくさん取っています。子どもからの発信を見逃さないように努め、子どもの好きなこと、興味があることを活動に取り入れることで、子どもが自分から遊びを見つけ、友だちと一緒に楽しめるように支援しています。このように、保育士に優しく受け止めてもらい、たくさん話をきいてもらっているため、子どもたちはたくさんおしゃべりをし、自分の思いを素直に表出しています。保育士の見守りのもと、子どもたちは思いっきり身体を動かし、様々な経験をし、のびのびと園生活を楽しんでます。

##### ●保護者に子どもの様子を丁寧に伝えてコミュニケーションを取ることで、信頼関係を築いています

保育室では、保護者が安心して子育てすることが、子どもの最善の利益につながるとの考えから、保護者支援に力を入れています。朝夕の送迎時には保護者に子どもの様子をエピソードと一緒に伝えて、コミュニケーションを取っています。連絡帳(あゆみノート)でも密に情報交換しています。年2回の懇談会では保育室での子どもの姿を伝え、保育室の方針を説明しています。また、年3回発行する保育室だより「どんぐりだより」では、具体的なエピソードを上げて、年齢に応じた子どもの成長を伝えるとともに、子どもの言葉や行動の背景にある子ども同士の関わりや子どもの思いについての考え方を伝え、共通認識を図っています。コロナ禍を機に行事の見直しをし、夏祭りは夕方に保育室、プレイデイは近くの公園で実施して、親子で楽しみながら保護者が子どもの日常の姿を見、子どもの成長を感じられるようにしています。年2回の個人面談のほか、必要に応じて随時面談を設定し、子育てだけでなく就労や体調面など、保護者の話を傾聴して受け止め、相談に応じています。このような取り組みの結果、保護者との信頼関係が築かれていて、今回の保護者アンケートでも全ての保護者が満足と答えています。

### 【今後に期待される点】

#### ●中長期的なビジョンを明確にし、職員に明示していくことが期待されます

単年度の事業計画は策定していますが、中長期的なビジョンを明確にし、文書化することはしていません。大きな方針は法人が決定していることもあり、保育室として将来的な展望が立てにくい点ではありますが、理念の実現に向けてどのような保育を展開していきたいか、そのためには何に取り組みたいかを明確にすることは、保育士のモチベーションにもつながります。現時点での目指す姿を中長期的なビジョンとして明文化し、それと連動した事業計画を策定していくことが期待されます。

#### ●保育の質の確保に向けて、文書化などの仕組みを整えていくことが期待されます

小規模な保育室ということもあり、保育士は職員会議や日常会話で情報交換を密にし、子どもの姿に応じた保育を柔軟に展開しています。ただし、職務分掌が作成されていなかったり、会議など組織としての意思決定の流れが明確でなかったり、改善への取り組みが文書化されていなかったりなど、仕組みが明確でないものがみられます。保育の質の確保だけでなく、職員の交替などがあっても保育の質が継承できるよう、仕組みを整えていくことが期待されます。

### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

第三者評価受審にあたり、自己評価表をもとに職員で話し合い、一項目ずつ評価を行いました。保育評価については様々な視点から保育内容を振り返る機会になり改善点やもっと向上していける所が明確になりました。話し合いを進めるなかで、子ども中心の保育・子どもの力を伸ばしていく保育について職員一人ひとりの思いを伝え合い、さらに職員心が一つになりました。共通評価については「おおぞらひまわり保育園」の職員とも連携をとり進めてまいりましたが、保育室として文書化が不足していたことを改めて認識しました。

評価委員会の方に実際に保育をみていただき、色々ご意見をいただいた事を今後の保育や運営に反映し、子どもにとってよりよい場所を提供しつづけます。

保護者の皆様のアンケートで、温かい言葉をいただいたことは職員の力になりましたし、ご意見いただいたことについても受け止め見直しをしていきます。今後も保育室とともに、子どもの成長を優しく温かく見守っていただけるとうれしいです。

皆様のご協力をいただき、初めての第三者評価を終えることができました。感謝いたします。

おおぞらどんぐり保育室  
施設長 松島 涼子

### ⑧第三者評価結果

別紙2のとおり